

◆◆◆ 1月13日のハイチの地震について

平成22年1月13日06時53分(日本時間)、中米のハイチでMw7.1の地震が発生しました。
この地震について気象庁は、CMT*解析、遠地実体波を用いた震源過程解析を行い、その結果を2月5日に次のとおり発表しました。

【1月13日ハイチ地震の解析結果】

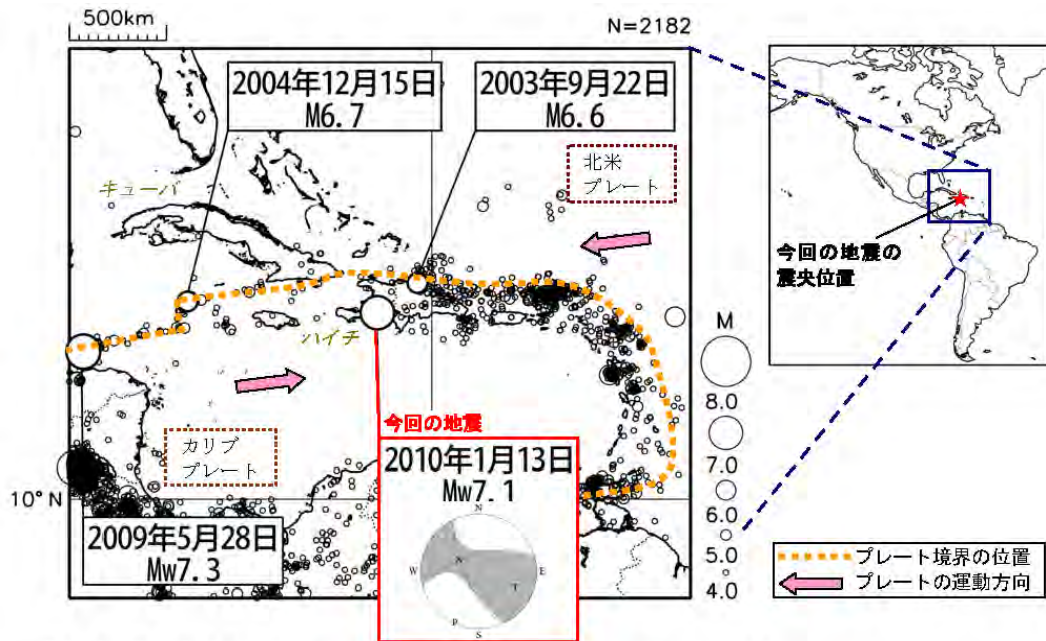
発生日時 : 1月13日 06時53分頃(日本時間)
場所及び深さ : 北緯18度27分、西経72度27分、深さ約10km
(米国地質調査所(USGS)による震源はN18.457、W72.533、深さ13km)
規模 : Mw7.1 (Mw:モーメントマグニチュード)
発震機構 : 西北西-東南東方向に張力軸をもつ横ずれ断層型
断層の長さ : 約30km
断層のすべり量 : 最大約5.5m

【概要】

地震発生同日07時20分、気象庁は「遠地地震に関する情報」を発表。この地震の発震機構(気象庁によるCMT解)は西北西-東南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型であった。

この地震により、ハイチでは甚大な被害が生じている。同国の首都ポルトープランスを中心に、死者15~20万人、被災者は200~300万人との情報がある(報道による)。

ハイチは北米プレートとカリブプレートの境界付近に位置し、M6.0以上で被害を伴う地震がしばしば発生している。ただし、死者10万人以上の被害を伴う地震は、世界的にも稀である。



震央分布図 (2000年1月1日~2010年1月31日、深さ0~100km、M \geq 4.0)

震源要素は米国地質調査所(USGS)による。2009年以降のM7.0以上の地震のMwは気象庁による。

*CMTとは、セントロイド・モーメント・テンソル(Centroid Moment Tensor)の略で、観測された地震波形を最もよく説明する地震の位置(セントロイド)、規模(モーメント・マグニチュード)、及び発震機構(メカニズム)を同時に求める解析法です。

(気象庁ホームページから)